

(様式例)

令和6年度【理科】 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2学年は、領域によっては目標値を上回ったものもあった。

(2) 課題

- ・ 1学年は、どの観点も目標値・区平均とはほぼ同スコアであるが、全国平均を大きく下回っているため、復習問題や小テストを多く取り入れるとともに、実験の仮説をたてることや積極的に実験に取り組むことができるよう授業改善を行っていく。
- ・ 2学年は、どの観点も目標値とほぼ同スコアで、区平均を上回っているが、全国平均は下回っているため、復習問題や小テストを多く取り入れるとともに、実験の仮説をたてることや積極的に実験に取り組むことができるよう授業改善を行っていく。
- ・ 3学年は、どの観点も区平均とほぼ同スコアであるが、目標値・全国平均を下回っているため、復習問題や小テストを多く取り入れるとともに、実験の仮説をたてることや積極的に実験に取り組むことができるよう授業改善を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全国の標準スコアよりも下回っている。		
第2学年	全国の標準スコアよりも上回っている。	全国の標準スコアよりも下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	全国の標準スコアよりも下回っている。	全国の標準スコアよりも下回っている。 (第2学年時)	全国の標準スコアよりも下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均を上回り、目標値・全国平均を下回っている。	目標値を上回り、全国および区平均を下回っている。	目標値・区平均を上回り、全国平均を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値・全国および区平均をそれぞれ上回っている。	全国および区平均を上回り、目標値を下回っている。	目標値・全国および区平均をそれぞれ上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値・全国および区平均をそれぞれ下回っている。	区平均を上回り、目標値・全国平均を下回っている。	全国および区平均を上回り、目標値を下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した実験の意味や重要単語を小テストや定期的な復習を通して繰り返し学習させる。 実験器具の名称や使い方を理解させ、実験観察における安全な取組みを身に付けさせる。	実験などを行う際には、予想をたて、結果の記録をまとめ考察することで、自分で考える力を養う。また、学習した内容を、グラフや化学式、作図、記述でまとめるなど、理解を深める工夫をする。 学習した内容をICTなどを活用しまとめていく活動をおして、思考力、表現力を養う。	実験や観察を多く取り入れたり、日常生活と結びつけたことや発展的な科学的な話題を取り上げたりしながら、理科に対しての興味・関心を高め、主体的・意欲的に学習に取り組ませる。 毎回の授業で分かったことや疑問に思ったことを書かせ、振り返りを行う。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した基礎的・基本的なポイントや重要な言葉などを単元ごとに振り返り、繰り返し学習する。 実験器具の名称や使い方、装置の組み立てのポイントを理解し、実験観察を安全に行える技能を身に付ける。	実験を行う際には予想を具体的にたて、結果を記録し、実験から見えてくる規則性などを考察することで、思考力・判断力を養う。 学習した内容をICTなどを活用しまとめていく活動をおして、思考力、表現力を養う。	日常の場面に絡んだ課題設定、話題を盛り込み、興味関心をもって学習に取り組めるよう工夫する。 自ら進んで学習に取り組めるように、教材や場面の工夫を行う。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の知識・理解を伸長するとともに、ワークや小テストなどの学習到達度の振り返り機会を設ける。 実験や観察を行う際、目的意識をしっかりとらせ、結果をまとめる。	実験を行った際は、実験した結果をもとに、考察を書かせるなどし、自分の考えを引き出す。また、自分の意見を発表する場を多くもうける。	毎回の授業で分かったことや疑問に思ったことを書かせ、振り返りを行う。 授業で日常生活と結びつけた活動をする。 実験内容を工夫する。